

研究結果報告書

所属 大同大学応用外国語学科

役職 助理教授

氏名 陳 明涓

【研究テーマ】

日本自治体との国際交流活動の参加が日本語学習者に与える影響—ネットワーク科学の手法を用いた高次元分析の試み—

【研究結果】

日本語教育において、学習者を最善の方向に導くためには、学習者の学習過程を長期的かつ高次元の視点から分析する必要がある。しかし、多くの実践研究では、一種類の授業や活動を対象にした分析にとどまり、学習者の変化を時系列で追跡する研究は限られている。本研究は、ネットワーク科学において広く使用される分析ソフトウェアGephiを日本語教育に適用し、学習者の変化が時系列で視覚的に明示することを目指した。

筆者が所属する大学では、国際交流教育と日本語教育の相互交流的効果を重視した独自の教育・文化活動を展開している。本研究は、国際交流が日本語学習者の学習過程に与える影響に重点を置き、英語専攻でありながら、日本語を第二外国語として学ぶ学習者21名を対象にした。Gephiによるネットワーク分析に加えて、関連性解析の一環として、特徴的な学習者三名を対象に半構造インタビューを行うことで、質的研究も行った。

本研究の最も重要な成果は、Gephiを用いて、学習者の長期的な学習経過をネットワークダイナミクス図として可視化したことである。21名の学習者の、入学時から三年次までの、日本語学習の経過や国際交流活動との関連性を含む複数サイクルのデータ資料を、相互の関連性や時系列変化で示すネットワーク図を構築し、各々の学習者の変化も捉えることができた。また、この図を通して、国際交流活動の参加により、学習者の自信や目標に変化が生じ、日本語能力の成長に寄与していることが明らかになった。さらに、学習者の学習タイプの分類も垣間見ることができた。半構造インタビューの結果から、学習者の内的要因、特に参加動機や目的が日本語学習の効果に強く影響することが示された。

本研究は日本語教育にネットワーク研究手法を取り入れ、その有効性と利点を示した。今後はさらに多様なデータを対象とし、縦断的研究を進め、教育現場での実践的な応用を目指す。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

2025年日本語教育春季大会の口頭発表に申し込む予定。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)